

小学校第3学年 図画工作

⑱世界に一つだけの鬼(追儼面)を考えよう

学習のねらい

- 安生寺に残された追儼面の形や色の感じなどを理解するとともに、自分がイメージした鬼面について表し方を工夫して表すことができる。
- 自分のもつ鬼のイメージを基に、鬼面の形や色などを考えたり、追儼面や自分たちのつくった鬼面の造形的なよさや面白さなどを感じ取ったりすることができる。
- 鬼面の製作を通して伝統的な形や色などに積極的に関わり、ふるさとの伝統への理解を深めようとする態度を養う。

郷土の資源について

校区内にある安生寺は持統天皇のころ(690年～697年)役行者が南に見える不思議な光を追い、そこで出会った老翁の言葉に従って、仏様と5色の追儼面をつくり、「国生の祭」というものを始めたことが起源とされている。五つのお面は現在も残っており、1300年以上も受け継がれてきた安生寺を調べることは、ふるさとへの愛着とふるさとを発信する力を高めることにつながると考える。

※追儼：鬼払いの儀式であり、節分のルーツとされている。

学習指導要領上の位置付け

第3・4学年 A 表現(2) B 鑑賞(1)

学習の流れ

1. 資料館で安生寺の歴史や追儼面について調べる。

2時間
(総合)

2. 調べたことを基に、追儼会で使用する鬼面を製作する。

- ・鬼面のデザイン(1時間(本時))、鬼面の製作と発表準備(3時間)

4時間
(図工)


3. 安生寺で、2年生に向けて学習成果の発表や追儼会を行う。

1時間
(総合)

参考文献・Web ページ

- ・「五條学」(五條市教育委員会 平成30年)

展開例（本時 1 / 4）

	学習活動	指導上の留意点（※評価規準）	備考
導入	○安生寺や追儼面について分かったことを交流し合う。	・安生寺や、資料館で見た追儼面について振り返る。	資料（安生寺、および五つの追儼面の写真）
	鬼のイメージを広げ、お面のデザインを考えよう。		
展開	○五つの追儼面を鑑賞し、印象や気付いたことを話し合う。	・それぞれの鬼面の形や色の違いに注目するよう助言するとともに、形や色の感じを基に自分なりの「鬼」のイメージをもてるようにする。	
	○追儼面の鑑賞を基に、鬼面のデザインを考える。 ○友達の考えなどを参考にしながら、自分の「鬼」のイメージを深める。	・追儼面の鑑賞を基にして考えた「鬼」のイメージに合わせて、デザインする鬼面の形や表情、色などを工夫してスケッチなどに表すよう助言する。 ・「鬼」のイメージを深めるために、資料館で聞いた話や事前学習で読んだ鬼に関わる話、友達の「鬼」のイメージなどを参考にしていよことを伝える。	
まとめ	○追儼面のデザインを紹介する。 ○「鬼」のイメージを広げ、次時の活動の見通しをもつ。	・表したい「鬼」のイメージと、鬼面の形や表情、色などの工夫とを関連付けて自分の作品を紹介したり、友達の作品を鑑賞したりするよう助言する。	 <p style="text-align: center;">追儼会の様子</p>
	○次時予告 デザインを基に、自分の鬼面の製作を知ることを知る。	・追儼面の製作や、追儼会の発表に対する児童の関心が高まるよう工夫する。 ※自分の「鬼」のイメージを基に、形や色、表情を工夫してデザインしている。	

発展的な学習の例

校区内にある他の歴史的建造物やそこに伝わる伝統、また、市に伝わる他の伝統的行事を多角的な視点で見つめ、調べる学習につなげることができる。